

令和2年(2020年)6月13日 (土曜日)

GW三島

# ネパールの子へマスク

## 「アベノ…」など寄付募る

「現地支援活動に協力を」

「マスクの寄付で、ネパールの子どもたちを救いましょう」。NPO法人グラウンドワーク三島は、ネパール日本友好協会と共に、政府支給の布マスクや市販、手作りマスクなど、幅広く寄付を募る活動を始めた。「受け取ったマスクや活動資金は、ネパール関係者との『信頼のネットワーク』を前提に、确实・効果的に現地へと届ける」としている。同NPOは2015年4月に起きたネパール

大地震の後、同友好協会(山梨県大月市)と共に支援活動を3回にわたりに行った。現在は首都カトマンズ市内にあるパシユパティナート寺院にバイオトイレを設置すべく、準備を進めているという。

こうした状況の中、新型コロナウイルス感染症拡大を懸念する現地から「絶対的にマスクが不足している」と、提供への強い要望を受け、行動を開始した。

政府支給品をはじめ、手作りや既製品でもマスクなら受け付けるが、未使用に限る。同NPOは「厳しい生

活環境に加え、ウイルスの恐怖にさらされているネパールの子どもたちや人々を救い、守るためにも、ぜひ協力をお願いしたい」と呼び掛けている。提供は三島市芝本町6-2の同NPO事務局や同友好協会まで郵送(送料は各自負担)するか、



大地震後に厳しい生活環境が続くネパール。GW三島はこれまでも簡易型バイオトイレや医療支援を続けている=2015年(提供写真)

同NPOまで持参する。問い合わせは同NPO(電話055-301336)へ。